

みどり環境局が所管する外郭団体の協約マネジメントサイクルに基づく 評価結果等について

本市では、各外郭団体が一定期間における主要な経営目標を本市との「協約」として掲げ、経営の向上を促進する「協約マネジメントサイクル」の取組を進めています。

各団体において取組を進めている「協約」については、目標に対する進捗状況の確認及び経営を取り巻く環境の変化への対応について毎年度振り返りを実施するとともに、横浜市外郭団体等経営向上委員会（以下「経営向上委員会」という。）による評価を実施し、マネジメントサイクルの効果の向上及び団体経営の健全化を図っています。

このたび、当局が所管する外郭団体である「公益財団法人横浜市緑の協会」について、令和5年度の取組実績を踏まえ、協約の進捗状況の確認及び振り返りを実施しましたので御報告します。

またあわせて、経営向上委員会での議論を踏まえ、令和6年度からの「協約等(案)」を作成しましたので御報告します。

1 評価結果等

(1) 令和3年度から令和5年度までの協約に係る取組状況

ア 公益的使命の達成に向けた取組（SDGs 達成に向けた取組）

協約期間の 主要目標	①SDGsの視点による事業の取組推進及びY-SDGs（横浜市SDGs認証制度）の認証取得 ②低圧電力等における再エネ100%電力の導入 令和3年度50%、令和4年度60%、令和5年度70%		
目標達成に 向けて 取り組んだ 内容及び成果	①職員向けの研修の実施や協会のSDGs取組の推進及び社会状況の変化を反映し「横浜市緑の協会SDGs達成に向けた取組」の改定を行った。Y-SDGsの認証「最上位=Supreme（スプリーム）」を取得・継続した。 ②新たに再エネ100%電力15件の契約切替を行い、電気使用量割合74%を達成した（低圧電力のうち小売電気事業者に再エネ電力メニューがない公衆街路灯を除くと100%の実施率）。		
実績	前年度 (令和4年度)	令和5年度	当該年度の進捗状況 等
	①Y-SDGsの認証取得 (最上位=Supreme (スプリーム)) ②低圧電力等における 再エネ100%電力の使 用割合60%	①「横浜市緑の協会SDGs 達成に向けた取組」の更新 及びY-SDGsの認証取得・ 継続(最上位=Supreme (スプリーム)) ②低圧電力等における再エ ネ100%電力の使用割合 74%	達成
今後の課題 及び対応	SDGsの達成に取り組むとともに、ネイチャーポジティブ（以下「NP」という。）に向け生物多様性保全やネイチャー・ベースド・ソリューション（自然を活用した解決策。以下「NbS」という。）にも貢献するため、研修等を実施する。また高圧電力に関して、切替可能なメニューが出てくる場合、可能な範囲で再エネ100%電力への契約切替を検討する。		

イ 公益的使命の達成に向けた取組（緑化推進事業）

協約期間の 主要目標	①ガーデンネックレス横浜など花や緑に関わる大規模イベントの開催により、緑化への関心が高まるとともに、文化・観光の振興、賑わいづくりなどにも寄与している。 里山ガーデンフェスタ入場者数 毎年 24 万人 ②国際園芸博覧会に向けた新たな人材育成および活用スキームの構築 ガイドボランティア育成 毎年 10 名以上 ③国際園芸博覧会の機運醸成を目的とした市民協働花壇の設置・育成 協会が管理する指定管理公園への市民協働花壇の設置・育成 累計 3 か所以上		
目標達成に向けて 取り組んだ 内容及び成果	①ガーデンネックレス横浜 2023（通年）、里山ガーデンフェスタ（春・秋）を実施し、約 22 万人が訪れ、賑わいの創出、緑化への関心を高めることができた。 ②ガーデンネックレス横浜ガイドボランティア育成講座を修了した 14 名が里山ガーデンフェスタで活動を開始した。 ③3公園で花壇を新規設置、令和4年度までに設置した6公園の花壇と合わせて9公園で、市民協働による花壇の維持管理を行った。		
実績	前年度 (令和4年度)	令和5年度	当該年度の進捗状況等
	①ガーデンネックレス横浜（通年）、里山ガーデンフェスタ（春来場者 164,233 人、秋来場者 84,852 人、合計 249,085 人） ②ガーデンネックレス横浜ガイドボランティア（17名） ③協会の指定管理公園 6 か所で設置・管理	①ガーデンネックレス横浜（通年）、里山ガーデンフェスタ（春来場者 142,394 人、秋来場者 75,597 人、合計 217,991 人） ②ガーデンネックレス横浜ガイドボランティア（14名） ③協会の指定管理公園 9 か所で設置・管理	未達成 （里山ガーデンフェスタ来場者数目標（24 万人/年）未達成）
今後の課題 及び対応	世界的な潮流として、NP に向け生物多様性保全や NbS が、より一層重要さを増していることから、自然共生社会の実現を目指して開催される GREEN×EXPO 2027 への貢献も視野に、特に次の取組に注力していく。 ①横浜市の施策であるガーデンネックレス横浜と連携して事業を推進し、緑・自然への関心の醸成を図る。 ②GREEN×EXPO 2027 での活躍も視野に入れ、ボランティアの育成対象を一般市民に拡大する。 ③維持管理に必要な知識、技術の習得を目的とした研修会の実施により、市民の活動を継続的にサポートする。		

ウ 公益的使命の達成に向けた取組（動物園事業）

協約期間の 主要目標	①種の保存（守り続ける） 世界と手を取り合って野生動物を計画的に守っていく役割 多様な行動を引き出す飼育環境改善（5件/年）（各園） ②環境教育（知り伝える） 動物や生息環境のことを多くの人々へ伝え、行動につなげる役割 出張動物園スクール等（リモート含む）の実施回数（40回/年）（3園合計） ③レクリエーション（出会い感じる） 動物に魅せられ、ともに生きることの大切さを感じられる公園としての役割 季節ごとに特色あるイベントや企画展の実施（4件/年）（各園） ④調査研究（理解し学ぶ） 動物に対する科学的な知識を深め、その情報を市民と共有する役割 市民向け研究発表等の実施（15回/年）（3園合計）
目標達成に向けて 取り組んだ 内容及び成果	①動物福祉に配慮し、科学的評価にも取り組むエンリッチメント（飼育動物の生活環境を豊かにする取組）を実施するとともに、希少動物の繁殖にも取り組んだ。 ②小学校へ出張又はオンラインで各種教育プログラムを実施するとともに、園内でのガイドやワークショップ等を実施した。 ③動物園の魅力を伝えるイベントや企画展を実施し、利用者調査アンケートでは、3園平均98.2%を得ることが出来た。

	④動物に対する科学的な知識を共有するため、大学等との共同研究を実施し、その成果は動物園での研究発表やホームページ等で広く周知した。 また、動物に関する総合学術誌に論文を投稿した。		
実績	前年度 (令和4年度)	令和5年度	当該年度の進捗状況等
	①よこはま動物園：7件 野毛山動物園：5件 金沢動物園：6件 ②3園合計：103回 [よこはま動物園：32件 野毛山動物園：24件 金沢動物園：47件] ③各園4件 ④3園合計：32回 [よこはま動物園：15回 野毛山動物園：7回 金沢動物園：10回]	①よこはま動物園：10件 野毛山動物園：5件 金沢動物園：5件 ②3園合計：118回 [よこはま動物園：31件 野毛山動物園：30件 金沢動物園：57件] ③各園4件 ④3園合計：34回 [よこはま動物園：9回 野毛山動物園：9回 金沢動物園：16回]	達成
今後の課題及び対応	・生息域内外での生物多様性保全活動、動物福祉にも配慮した飼育管理、科学的知見に資する調査研究、多様な主体と連携した教育普及活動、動物園ならではのレクリエーション推進などで、動物園の役割を果たしていく。 ・世界的な潮流として、NPに向け生物多様性保全やNbSが、より一層重要さを増していることから、自然共生社会の実現を目指して開催されるGREEN×EXPO 2027への貢献も視野に、次の取組に注力していく。 ①動物園における環境教育・学習の推進 ②動物園における種の保存の推進		

エ 財務に関する取組

協約期間の 主要目標	①公益への還元として、指定管理の協定上、指定管理者として実施すべき項目以外にも、施設・設備・備品等の修繕・更新・調達等を実施し、市の財政負担軽減及び市民サービスの向上を図る。 公園・動物園事業における公益への還元（1,000万円/年） ②①を実施したうえでの資金収支計算書における収支均衡を維持（毎年）		
目標達成に向けて 取り組んだ 内容及び成果	①施設・設備及び備品の修繕等を行い、公益への還元の目標を達成した。 ②計画通りの事業展開により、収支均衡を維持することができた。		
実績	前年度 (令和4年度)	令和5年度	当該年度の進捗状況等
	①63,138,824円 ②当期資金収支差額 14,251,272円	①23,632,950円 ②当期資金収支差額 1,023,394円	達成
今後の課題 及び対応	①施設の老朽箇所が増えているため、基本協定書に則り、修繕・更新・調達等の優先順位を横浜市と協議して進めていく。 ②収支均衡を維持するため、集客イベントによる施設の利用促進を図りながら、経費の削減に取り組む。		

オ 人事・組織に関する取組

協約期間の 主要目標	①人材育成ビジョンの改定 ②改定した人材育成ビジョンの考え方に基づく研修等の実施		
目標達成に 向けて 取り組んだ 内容及び成果	①新たな職種（飼料嘱託）に対応した人材育成ビジョンの改定を行った。 ②令和5年度研修計画に基づき新たに中堅職員（7年目の総合職員Ⅱ）研修を実施し、職場の中核として求められる役割であるリーダーシップ、フォロワーシップについて理解し、各職場で実践した。		
実績	前年度 (令和4年度)	令和5年度	当該年度の進捗状況等
	①人材育成ビジョンの改定 ②令和5年度研修計画の策定	①新たな職種（飼料嘱託）に対応した人材育成ビジョンの改定を行った。 ②令和5年度研修計画に基づき、新たに中堅職員研修を実施した。	達成
今後の課題 及び対応	①新たな職種・雇用形態を設ける際には、人材育成ビジョンの改定及び周知も同時に行う。 ②各種研修について、効果的な内容となるよう実施する必要があるため、関連部署へのヒアリングや、既存の研修アンケートを参考に引き続き内容を工夫して実施する。		

(2) 令和6年度から令和8年度までの協約等（案）の概要

協約期間	令和6年度～令和8年度
協約期間設定の考え方	前協約の期間と同期間
市財政貢献に向けた考え	・公園や動物園等に附帯する売店、駐車場等の運営を通じて、市民サービスの向上を図るとともに、得られた収益の一部を公益目的事業への還元として、施設・設備・備品等の修繕・更新・調達等を実施し、市の財政負担軽減及び市民サービスの向上を図る。 ・また、事業の見直しや財源確保の取組を進め、健全な協会運営を行う。
協約期間の 主要目標	<u>公益的使命の達成に向けた取組</u> GREEN×EXPO 2027が目指す自然共生社会の実現に貢献するため、次の①から⑥までの施策に取り組む。 ①里山ガーデンフェスタ等の開催による緑・自然への関心の醸成 ②緑化に取り組む市民活動の育成 ③GREEN×EXPO 2027での活躍も視野に入れたガイドボランティア育成 ④GREEN×EXPO 2027機運醸成の取組 ⑤動物園における環境教育・学習の推進 ⑥動物園における種の保存への取組
	<u>財務に関する取組</u> ・資金収支計算書における収支均衡を維持し、公園・動物園事業における公益への還元を行いながら、安定的・継続的に事業運営を行う。
	<u>人事・組織に関する取組</u> ①女性職員が意欲と能力を発揮し、多様性を活かすことができる環境をつくり優秀な人材を確保するため、女性活躍の推進による「えるぼし認定（3段階目）」を継続取得する。 ②自律的かつ持続可能な組織運営を担うことのできる職員を育成するため、資格取得支援制度を見直し、新たな人材育成支援制度を創設する。

(3) 経営向上委員会からの総合評価等

ア 総合評価分類

事業進捗・環境変化等に留意

※ 経営向上委員会による評価は、以下の4つの評価分類から、団体ごとに決定しています。

- ・ 引き続き取組を推進／団体経営は順調に推移※ ※最終振り返り時の分類名
- ・ 事業進捗・環境変化等に留意
- ・ 取組の強化や課題への対応が必要
- ・ 団体経営の方向性の見直しが必要

イ 団体経営の方向性（団体分類）

引き続き経営の向上に取り組む団体

※ 「団体経営の方向性」は、以下の4つの団体分類から、団体ごとに決定しています。

- ・ 統合・廃止の検討を行う団体
- ・ 民間主体への移行に向けた取組を進める団体
- ・ 事業の整理・重点化等に取り組む団体
- ・ 引き続き経営の向上に取り組む団体

ウ 経営向上委員会からの意見

「公益的使命の達成に向けた取組」の「緑化推進事業」が「未達成」となっている。

公園を活用した新たなにぎわいづくりに向けた取組や、IT を活用したイベント来場者のデータ分析は評価できる。引き続き、団体の公益的使命の達成と収益増につなげてほしい。また、寄附やクラウドファンディングについて、複数年にわたり成果が上がっているのは、団体の努力の成果である。

新協約に掲げた市財政貢献に向けた取組については、精力的に進めるとともに、社会情勢の変化を踏まえた「緑化推進事業」や「動物園事業」の今後のあり方については、市所管局と共に長期的な視点で検討を進めてもらいたい。

(4) 所管局・団体による振り返り

令和5年度までの協約では、新型コロナウイルス感染症が5類へ移行し、レジャー施設の利用が分散したこと、また記録的猛暑による出控えの傾向がみられたことから、一部未達成となった事業もありました。

令和6年度からの協約等（案）においては、協約期間の令和9年3月に「GREEN×EXPO 2027」が開催されることから、本博覧会への貢献につながる施策を公益的使命達成のための取組として掲げ、取り組んでいくこととしました。

今後も市と団体とで連携し、経営向上に努めてまいります。

2 添付資料

- (1) 【別紙1】自己評価シート（令和5年度実績）
- (2) 【別紙2】協約等（案）
- (3) 【別紙3】令和6年度 横浜市外郭団体等経営向上委員会 答申

【参考1】経営向上委員会について

設置根拠	横浜市外郭団体等経営向上委員会条例（平成26年9月25日施行）
設置目的	外郭団体等のより適正な経営の確保を図るとともに、外郭団体等に関して適切な関与を行うため
委員 (任期2年) ※50音順	河合 千尋（ベイサイド・パートナーズ会計事務所 公認会計士）
	寺本 明輝（リエゾンアシストラボ 代表）【委員長】
	橋本 美奈子（日本濾水機工業株式会社 代表取締役社長）
	福田 敦（関東学院大学 経営学部 教授）
設置	平成26年10月21日
所掌事務	<ol style="list-style-type: none"> 1 外郭団体等のより適正な経営を確保するための仕組み及び外郭団体等に対する市の関与の在り方に関する事 2 外郭団体等の経営に関する方針等及びその実施状況の評価に関する事 3 外郭団体等の設立、解散、合併等に関する事 4 その他外郭団体等に関し市長が必要と認める事項

【参考2】委員会での審議方法について

令和3年度までは全団体について審議を行っていましたが、令和4年度からは、より深い議論ができるよう、審議団体数を絞り、全ての団体が概ね3年毎に審議を受けるように変更しました。

なお、委員会審議がない年も、所管局・団体による進捗状況の自己評価を行うとともに、委員会への報告を実施しています。

みどり環境局の所管する外郭団体については、今年度は1団体が委員会審議を受ける「審議団体」です。

自己評価シート（令和5年度実績）

団体名	公益財団法人横浜市緑の協会
所管課	みどり環境局総務課（令和5年度まで：環境創造局総務課）
協約期間	令和3年度～令和5年度
団体経営の方向性	引き続き経営の向上に取り組む団体

1 協約の取組状況等

(1) 公益的使命の達成に向けた取組

① SDGs 達成に向けた取組

ア 取組	緑化推進・公園・動物園及び経営の各事業を多様な主体と連携して取り組むことで、良好な都市環境の形成など身近な市民生活に関わるものから、生物多様性の保全など国際的な課題につながるものまで多岐にわたる当協会の役割を果たし、持続可能な社会の実現に貢献する。			
イ 公益的使命の達成に向けた協約期間の主要目標	①SDGsの視点による事業の取組推進及びY-SDGs（横浜市SDGs認証制度）の認証取得 ②低圧電力等における再エネ100%電力の導入 令和3年度50%、令和4年度60%、令和5年度70%			
ウ 目標達成に向けて取り組んだ内容	①職員向けの研修の実施及び「横浜市緑の協会SDGs達成に向けた取組」の見直し ②低圧電力等における再エネ100%電力への切替の促進	エ 取組による成果	①全職員向けの研修を実施し、協会全体の意識向上に繋がった。また、策定より2年が経過する「横浜市緑の協会SDGs達成に向けた取組」の更新を行うことで、協会のSDGs取組の推進や社会状況の変化を現在の状況に合わせる事ができた。（令和6年4月1日改訂） ②新たに再エネ100%電力15件の契約切替を行い（累計58件）、電気使用量割合74%を達成した（低圧電力のうち小売電気事業者に再エネ電力メニューがない公衆街路灯を除くと100%の実施率）。また、高圧電力では三ツ沢公園において横浜市風力発電等の再エネ電力の導入検討を進め、令和6年度からの契約切替を行った。	
オ 実績	令和2年度	令和3年度	令和4年度	最終年度（令和5年度）
数値等	①「横浜市緑の協会SDGs達成に向けた取組」の素案作成 ②低圧電力等における再エネ100%電力の使用割合18%	①「横浜市緑の協会SDGs達成に向けた取組」の策定、Y-SDGsの認証取得（上位＝Superior（スーパー）） ②低圧電力等における再エネ100%電力の使用割合53%	①Y-SDGsの認証取得（最上位＝Supreme（スプリーム）） ②低圧電力等における再エネ100%電力の使用割合60%	①「横浜市緑の協会SDGs達成に向けた取組」の更新、Y-SDGsの認証取得・継続（最上位＝Supreme（スプリーム）） ②低圧電力等における再エネ100%電力の使用割合74%
当該年度の進捗状況	達成（①「横浜市緑の協会SDGs達成に向けた取組」を更新した。また、Y-SDGsの認証「最上位＝Supreme（スプリーム）」を取得・継続した。②令和5年度目標を達成した。）			
カ 今後の課題	①SDGsの達成に取り組むとともに、ネイチャーポジティブ（以下「NP」という。）に向け生物多様性保全やネイチャー・ベースド・ソリューション（自然を活用した解決策。以下「NbS」という。）にも貢献するため、職員がSDGsの視点をもって事業に取り組むことが必要である。 ②切替可能な範囲で全ての低圧電力等における再エネ100%電力への契約切替を実施済である。	キ 課題への対応	①SDGsの取組を更に加速させるため、NP・NbSや横浜市の施策などを理解し、各職員の役割を認識するための研修等を実施する。 ②高圧電力については、切替可能なメニューが出てくる場合、可能な範囲で再エネ100%電力への契約切替を検討する。	

② 緑化推進事業

ア 取組	<p>基金の運用益等を活用した緑化推進事業を実施し、市民の都市緑化への関心を高め、市民による緑化活動を支援するなど、市の都市緑化施策の一部を担うことにより都市の住環境や魅力の向上に貢献する。</p>			
イ 公益的使命の達成に向けた協約期間の主要目標	<p>①ガーデンネックレス横浜など花や緑に関わる大規模イベントの開催により、緑化への関心が高まるとともに、文化・観光の振興、賑わいづくりなどにも寄与している。 里山ガーデンフェスタ入場者数 毎年 24 万人 ②国際園芸博覧会に向けた新たな人材育成および活用スキームの構築。よこはま花と緑の推進リーダー（以下、「推進リーダー」という。）の中から、花や緑の専門知識を習得したガーデンネックレス横浜ガイドボランティアを育成し、里山ガーデンフェスタ会場で活用 ガイドボランティア育成 毎年 10 名以上 ③国際園芸博覧会の機運醸成を目的とした市民協働花壇の設置・育成 協会が管理する指定管理公園への市民協働花壇の設置・育成 累計 3 か所以上</p>			
ウ 目標達成に向けて取り組んだ内容	<p>①ガーデンネックレス横浜 2023（通年）、里山ガーデンフェスタ（春・秋）を実施 ②ガーデンネックレス横浜ガイドボランティア育成講座を実施。講座を修了した 14 名が里山ガーデンフェスタで活動 ③市民協働花壇を岸根公園、長浜公園、海の公園に設置、管理開始。昨年度までに設置した根岸森林公園、野島公園、こども植物園、金沢自然公園、俣野公園、三ツ沢公園の市民協働花壇の管理を継続</p>	エ 取組による成果	<p>①横浜市と連携しガーデンネックレス横浜 2023 を実施した。 里山ガーデンフェスタは天候不良の日もあったが、約 22 万人が訪れ、賑わいの創出、緑化への関心を高めることができた。 ②ガーデンネックレス横浜ガイドボランティア育成講座を修了した 14 名が新たに里山ガーデンフェスタで活動を開始した。 ③ 3 公園で花壇を新規設置、令和 4 年度までに設置した 6 公園の花壇と合わせて 9 公園で、市民協働による花壇の維持管理を行った。この取組により、よこはま緑の推進団体、推進リーダー及び市民ボランティアに加え、公園利用者に対して国際園芸博覧会の機運醸成を図ることができた。</p>	
オ 実績	令和 2 年度	令和 3 年度	令和 4 年度	最終年度（令和 5 年度）
数値等	<p>①ガーデンネックレス横浜（通年）、里山ガーデンフェスタ（秋 1 回、来場者 93,700 人）※里山ガーデンフェスタ（春）は中止 ②③（新規取組のため、省略）</p>	<p>①ガーデンネックレス横浜（通年）、里山ガーデンフェスタ（春 1 回、来場者 171,128 人）※里山ガーデンフェスタ（秋）は中止 ②ガーデンネックレス横浜ガイドボランティア 8 名 ③協会の指定管理公園 3 か所で設置・管理</p>	<p>①ガーデンネックレス横浜（通年）、里山ガーデンフェスタ（春来場者 164,233 人、秋来場者 84,852 人） ②ガーデンネックレス横浜ガイドボランティア（R 3 年度 8 名、R 4 年度 17 名） ③協会の指定管理公園 6 か所で設置・管理（R 3 年度 3 公園、R 4 年度 3 公園）</p>	<p>①ガーデンネックレス横浜（通年）、里山ガーデンフェスタ（春来場者 142,394 人、秋来場者 75,597 人） ②ガーデンネックレス横浜ガイドボランティア（R 3 年度 8 名、R 4 年度 17 名、R 5 年度 14 名） ③協会の指定管理公園 9 か所で設置・管理（R 3 年度 3 公園、R 4 年度 3 公園、R 5 年度 3 公園）</p>
当該年度の進捗状況	<p>未達成（①里山ガーデンフェスタ来場者数目標（24 万人/年）未達成。②ガーデンネックレス横浜ガイドボランティア育成目標（10 名/年）を達成した。③市民協働花壇は、目標（累計 3 か所以上設置・管理）を達成した。）</p>			
カ 今後の課題	<p>・今期協約結果を踏まえた都市緑化推進における今後の課題は、次のとおり ①花や緑に関する普及啓発の継続的な実施 ②市民ボランティアの募集、育成と活動スキーム作り ③継続的な人材育成、技術支援 ・また、世界的な潮流として、NP に向け生物多様性保全や NbS が、より一層重要性を増している。</p>	キ 課題への対応	<p>次期協約期間では、NbS による自然共生社会の実現を目指して開催される GREEN×EXPO 2027 への貢献も視野に、特に次の取組に注力していく。 ①横浜市の施策であるガーデンネックレス横浜と連携して事業を推進し、緑・自然への関心の醸成を図る。 ②GREEN×EXPO 2027 での活躍も視野に入れ、ボランティアの育成対象を一般市民に拡大する。 ③維持管理に必要な知識、技術の習得を目的とした研修会の実施により、市民の活動を継続的にサポートする。</p>	

③ 動物園事業

ア 取組	動物園の役割である「種の保存」「環境教育」「レクリエーション」「調査研究」に関する事業を多様な主体と連携・実施し、その成果を広く発信することを通して、動物園の持つ役割を来園者等に伝えることにより、動物の生息環境を含めた生物多様性保全に貢献していく。			
イ 公益的使命の達成に向けた協約期間の主要目標	<p>①種の保存（守り続ける） 世界と手を取り合って野生動物を計画的に守っていく役割 多様な行動を引き出す飼育環境改善（5件/年）（各園）</p> <p>②環境教育（知り伝える） 動物や生息環境のことを多くの人々へ伝え、行動につなげる役割 出張動物園スクール等（リモート含む）の実施回数（40回/年）（3園合計）</p> <p>③レクリエーション（出会い感じる） 動物に魅せられ、ともに生きることの大切さを感じられる公園としての役割 季節ごとに特色あるイベントや企画展の実施（4件/年）（各園）</p> <p>④調査研究（理解し学ぶ） 動物に対する科学的な知識を深め、その情報を市民と共有する役割 市民向け研究発表等の実施（15回/年）（3園合計）</p>			
ウ 目標達成に向けて取り組んだ内容	<p>①動物福祉に配慮し、科学的評価にも取り組むエンリッチメント（飼育動物の生活環境を豊かにする取組）を実施するとともに、希少動物の繁殖にも取り組んだ。</p> <p>②小学校への出張又はオンラインで各種教育プログラムを実施するとともに、園内でのガイドやワークショップ等を実施した。</p> <p>③安全・安心に楽しんでいただけるよう感染防止対策を徹底し、動物園の魅力を伝えるイベントや企画展を実施した。</p> <p>④動物に対する科学的な知識を共有するため、大学等との共同研究を実施し、その成果は動物園での研究発表やホームページ等で広く周知した。 また、動物に関する総合学術誌に論文を投稿した。</p>	エ 取組による成果	<p>①よこはま動物園では、クラウドファンディングにより2500万円以上の支援を集め、ミナミアフリカオットセイ展示場への日除けの設置等による動物福祉に配慮した展示場改修を行った。また、17年振りにウーリーモンキー、24年振りにシシオザルが誕生した。野毛山動物園では初めてのコアリクイ、金沢動物園ではアマミトゲネズミが誕生する等、多くの希少動物の繁殖に成功した。</p> <p>②小学校への出張等の各種教育プログラムに加え、「世界オカピの日」など動物種ごとに制定された日に合わせた特別ガイドを実施した。また、野毛山動物園では新たに「世界渡り鳥の日」や「バードウォッチング入門」を実施し、野鳥の生態や生息環境について学ぶ機会を提供した。</p> <p>③季節に応じたイベント等を実施することで、利用者調査アンケートにおいて「全体的な満足度」では、3園平均98.2%（とても満足、やや満足の合計）を得ることができ、昨年度より1ポイント上昇した。</p> <p>④「三次元計測によるキリン、オカピ、クロサイの体型分析」の論文が、動物園植物園の総合学術誌である「Journal of Zoological and Botanical Gardens」に掲載され、全世界へ成果を共有・発信することができた。</p>	
オ 実績	令和2年度	令和3年度	令和4年度	最終年度（令和5年度）
数値等	<p>①（未集計のため省略）</p> <p>②3園合計：40回</p> <p>③よこはま動物園：2件 野毛山動物園：3件 金沢動物園：2件</p> <p>④3園合計：12回</p>	<p>①よこはま動物園：5件 野毛山動物園：5件 金沢動物園：12件</p> <p>②3園合計：67回 〔よこはま動物園：21件〕 〔野毛山動物園：13件〕 〔金沢動物園：33件〕</p> <p>③各園4件</p> <p>④3園合計：28回 〔よこはま動物園：12回〕 〔野毛山動物園：6回〕 〔金沢動物園：10回〕</p>	<p>①よこはま動物園：7件 野毛山動物園：5件 金沢動物園：6件</p> <p>②3園合計：103回 〔よこはま動物園：32件〕 〔野毛山動物園：24件〕 〔金沢動物園：47件〕</p> <p>③各園4件</p> <p>④3園合計：32回 〔よこはま動物園：15回〕 〔野毛山動物園：7回〕 〔金沢動物園：10回〕</p>	<p>①よこはま動物園：10件 野毛山動物園：5件 金沢動物園：5件</p> <p>②3園合計：118回 〔よこはま動物園：31件〕 〔野毛山動物園：30件〕 〔金沢動物園：57件〕</p> <p>③各園4件</p> <p>④3園合計：34回 〔よこはま動物園：9回〕 〔野毛山動物園：9回〕 〔金沢動物園：16回〕</p>
当該年度の進捗状況	達成（アフターコロナの新しい生活様式や各種ガイドラインに対応した感染防止対策を徹底して実施しつつ、動物園の持つ役割を十分に果たし、動物の生息環境を含めた生物多様性保全に貢献することができた。）			
カ 今後の課題	<ul style="list-style-type: none"> ・今期協約の結果も踏まえ、引き続き動物園の役割を果たしていく必要がある。 ・また、世界的な潮流として、NPに向け生物多様性保全やNbSが、より一層重要さを増している。 	キ 課題への対応	<ul style="list-style-type: none"> ・動物園事業では引き続き、生息域内外での生物多様性保全活動、動物福祉にも配慮した飼育管理、科学的知見に資する調査研究、多様な主体と連携した教育普及活動、動物園ならではのレクリエーション推進などで、動物園の役割を果たしていく。 ・特に、次期協約期間では、NbSによる自然共生社会の実現を目指して開催されるGREEN×EXPO 2027への貢献も視野に、次の取組に注力していく。 <p>①動物園における環境教育・学習の推進 ②動物園における種の保存の推進</p>	

(2) 財務に関する取組

ア 財務上の課題	①新型コロナウイルス感染症への対応による収入の減 ②公益への還元を図りつつ、安定的な経営を継続するために、収入の増、支出の減に注力し、収支改善を図る必要がある。			
イ 協約期間の主要目標	①公益への還元として、指定管理の協定上、指定管理者として実施すべき項目以外にも、施設・設備・備品等の修繕・更新・調達等を実施し、市の財政負担軽減及び市民サービスの向上を図る。 公園・動物園事業における公益への還元 (1,000 万円/年) ②①を実施したうえでの 資金収支計算書における収支均衡を維持 (毎年)			
ウ 目標達成に向けて取り組んだ内容	①協定で定められた額(※)以上の施設・設備及び備品の修繕等を行った。 ※横浜市との協定では、公園は50万円または100万円以上、動物園は100万円以上の修繕等を市が行うと取り決められている。 ②新型コロナウイルス感染症が5類に移行したこともあり、公園、動物園ともに概ね、事業計画通りの事業を実施した。 【公園事業】 山手西洋館ではいけばな七流派の家元による「花と器のハーモニー」を実施し、多くのメディアに取り上げられ、来館者増に繋がった。また、三ツ沢公園レストハウスでは飲食施設をリニューアルオープンした。 【動物園事業】 よこはま動物園でクラウドファンディングによるオットセイ展示場を改修したほか、相鉄・東急直通線やみなとみらい周遊バス車内での広報、電子チケットの販売など誘客・利便性を図った。	エ 取組による成果	①公益への還元について次のとおり達成することができた。 【公園事業】 三ツ沢公園ピオトープ修繕・改修工事、根岸森林公園多目的トイレ鋼製建具破損修繕 【動物園事業】 よこはま動物園オナガザル舎天窓修繕、野毛山動物園ダチョウ展示場日よけ設置工事、よこはま動物園管理棟女子更衣室洗濯乾燥機購入、よこはま動物園ウミドリ展示場床面改修、よこはま動物園オナガザル展示場止まり木交換、よこはま動物園ホッキョクグマ舎日よけ修繕等 ②計画通りの事業展開により、収支均衡を維持することができた(1,023千円)。	
オ 実績	令和2年度	令和3年度	令和4年度	最終年度(令和5年度)
数値等	①9,980,795円 ②当期資金収支差額 ▲2,395,017円	①111,275,929円 ②当期資金収支差額 88,299,866円	①63,138,824円 ②当期資金収支差額 14,251,272円	①23,632,950円 ②当期資金収支差額 1,023,394円
当該年度の進捗状況	達成(①主として動物園の展示場修繕を実施し、公益への還元を達成できた。②収支均衡を達成出来た。)			
力 今後の課題	①施設の老朽箇所が増えているため、施設の改善、備品の買換え等が必要になる。 ②①の達成をしつつ、収支均衡を維持するためにも、収益の増、経費の削減に注力する。		キ 課題への対応	①基本協定書に則り、施設や設備の修繕・更新・調達等の優先順位を横浜市と協議して進めていく。 ②集客イベントによる施設の利用促進を図りながら、経費の削減に取り組む。

(3) 人事・組織に関する取組

ア 人事・組織に関する課題	協会設立から40年近くが経過し、管理施設・実施事業の多様化、少子高齢化、雇用に対する価値観の変化、SDGsの推進など、様々な環境の変化に対応するため、多種多様な職種・雇用形態の職員を雇用するようになってきている。現行の人材育成ビジョンはすべての職種・雇用形態に対応していないため、見直しを行う必要がある。			
イ 協約期間の主要目標	①人材育成ビジョンの改定 ②改定した人材育成ビジョンの考え方に基づく研修等の実施			
ウ 目標達成に向けて取り組んだ内容	①新たな職種（飼料嘱託）の設置を踏まえ、人材育成ビジョンの内容を見直した。 ②令和5年度研修計画に基づき新たに中堅職員（7年目の総合職員Ⅱ）研修を実施した。	エ 取組による成果	①新たな職種（飼料嘱託）に対応した人材育成ビジョンの改定を行った。 ②中堅職員研修を対象者3名が受講し、職場の中核として求められる役割であるリーダーシップ、フォローアップについて理解し、各職場で実践した。	
オ 実績	令和2年度	令和3年度	令和4年度	最終年度（令和5年度）
数値等	・CS・接遇研修など：年8回	①人材育成ビジョンの考え方の整理および骨子案作成 ②-	①人材育成ビジョンの改定 ②令和5年度研修計画の策定	①新たな職種（飼料嘱託）に対応した人材育成ビジョンの改定を行った。 ②令和5年度研修計画に基づき、新たに中堅職員研修を実施した。
当該年度の進捗状況	達成（①新たな職種（飼料嘱託）に対応した人材育成ビジョンの改定を行った ②令和5年度研修計画に基づき、新たに中堅職員研修を実施した。）			
カ 今後の課題	①新たな職種・雇用形態を設ける際には、人材育成ビジョンを見直す必要がある。 ②人材育成ビジョンに基づく各種研修については、効果的な内容となるよう実施する必要がある。	キ 課題への対応	①新たな職種・雇用形態を設ける際には、人材育成ビジョンの改定及び周知も同時に行う。 ②各種研修について、関連部署へのヒアリングや、既存の研修アンケートを参考に引き続き内容を工夫して実施する。	

2 団体を取り巻く環境等

(1) 今後想定される環境変化等

<ul style="list-style-type: none"> ・気候変動等による環境問題の深刻化やGREEN×EXPO 2027開催を契機として、市民の皆様の環境問題への関心が一層高まっている。 ・社会情勢や担い手不足などに起因する一層の物価高や人件費増により、収支バランスの悪化が懸念される。 ・少子高齢化の一層の進展や雇用に対する価値観の多様化等により、優秀な人材を確保するためのハードルが上がっている。 ・3動物園は開園から長期間（野毛山73年、金沢42年、よこはま25年）が経過し、施設・設備の老朽化が進んでおり、限られた経費の中で効率的な維持管理が必要となっている。
--

(2) 上記(1)により生ずる団体経営に関する課題及び対応

<ul style="list-style-type: none"> ・協会の公益的的使命である、都市緑化の推進や公園・動物園の運営、健全な利用の増進及び都市環境の改善等を一層進め、環境問題の改善に貢献する必要がある。さらに各事業でGREEN×EXPO 2027が目指す自然共生社会の実現に貢献する取組を進めるとともに、GREEN×EXPO 2027に向けた機運醸成に力を入れていく必要がある。 ・安定的な経営に向け、市とも連携して、収入増・経費節減に向けた取組を進める必要がある。 ・人材確保の競争力向上のため、性別や障害の有無に関わらず多様な人材が働きやすい職場づくりを進める必要がある。 ・3動物園の施設・設備管理に関し、3園で一体的に情報を共有して効果的・効率的な管理を進めるため、DX化の推進などを進める必要がある。

協約等(案)

団体名	公益財団法人横浜市緑の協会
所管課	みどり環境局総務課
団体に対する市の関与方針	政策実現のために密接に連携を図る団体

1 団体の使命等

(1) 団体の設立目的 (設立時の公益的使命)	この法人は、市民等の寄附によって積み立てられるよこはま緑の街づくり基金の運用による、都市緑化の推進を図るとともに、公園緑地及び動物園の円滑な運営、健全な利用の増進及び都市環境の改善を図り、もって公共の福祉の増進に寄与することを目的とする。(定款)
(2) 設立以降の環境の変化等	<ul style="list-style-type: none"> 当協会は昭和59年の設立以降、約40年にわたり、横浜市と共に、都市緑化の推進、公園・動物園の円滑な運営、健全な利用の増進及び都市環境の改善に取り組み、市民の皆様の公共の福祉の増進に寄与し続けている。 本協約期間の令和9年3月に、横浜上瀬谷でGREEN×EXPO 2027が開催される。この博覧会は、「幸せを創る明日の風景」をテーマとし、「Nature-based Solutions (自然を活用した解決策)」という考え方のもと、自然共生社会の実現を目指している。横浜市は開催都市として、会場や周辺地域の基盤整備のほか、GX関連事業等で緊密な連携・協力を行っており、当協会も横浜市の一翼を担い、積極的に協力・貢献していく必要があると考える。 一方、近年の物価・賃金上昇等の要因により、当協会を取り巻く経営環境は厳しさを増していることから、経営安定化に向けた取組を、より一層推進する必要がある。
(3) 上記(1)・(2)を踏まえた今後の公益的使命	<ul style="list-style-type: none"> 当協会の本来的な公益的使命である、都市緑化の推進、公園・動物園の円滑な運営、健全な利用の増進及び都市環境の改善等は、次の取組等により、達成に向け、引き続き着実に進める。 緑化推進：地域の緑化団体への活動支援や緑化人材の育成、生垣や屋上緑化等民有地緑化への助成、各種催しによる普及啓発など。 公園運営：良好な公園環境の維持や歴史・文化振興、各種催し等による賑わいづくり、市民協働・市民主体の活動支援・スポーツ教室などを通じたウェルビーイング増進など。 動物園運営：生息域内外の生物多様性保全活動、動物福祉にも配慮した飼育管理、科学的知見に資する調査研究、教育機関など多様な主体とも連携した教育普及活動、動物園ならではのレクリエーション推進など。 事業横断：Y-SDGs 認証継続などSDGs 達成に向けた取組 一方、GREEN×EXPO 2027は、開催都市である横浜市が成功に向け、全市的に取組を進めていること、加えて、本博覧会の開催趣旨が、当協会の公益的使命にも通じていると考えていることなどから、本協約期間では、当協会の各公益目的事業において、本博覧会への貢献につながる施策を掲げ、公益的使命の達成に向け取り組んでいく。また、厳しい経営環境を踏まえ、財務、人事・組織の安定化にも取り組んでいく。

2 団体経営の方向性

(1) 団体経営の方向性 (団体分類)	引き続き経営の向上に取り組む団体	参考(前期協約の団体経営の方向性)	引き続き経営の向上に取り組む団体
(2) 前協約からの団体経営の方向性の変更の有無	無		
(3) 団体経営の方向性の分類変更理由	—		
(4) 協約期間	令和6年度～8年度	協約期間設定の考え方	前協約の期間と同期間
(5) 市財政貢献に向けた考え	<ul style="list-style-type: none"> 公園や動物園等に附帯する売店、駐車場等の運営を通じて、市民サービスの向上を図るとともに、得られた収益の一部を公益目的事業への還元として、施設・設備・備品等の修繕・更新・調達等を実施し、市の財政負担軽減及び市民サービスの向上を図る。 また、事業の見直しや財源確保の取組を進め、健全な協会運営を行う。 		

3 目標

(1) 公益的使命の達成に向けた取組

<p>ア 取組</p>	<p>当協会は、緑化推進、公園・動物園運営の各事業の中で、GREEN×EXPO 2027 が目指す自然共生社会の実現に貢献する次の施策に取り組む。</p> <p>①里山ガーデンフェスタ等の開催による緑・自然への関心の醸成 ガーデンネックレス横浜など花や緑に関わる大規模イベントの開催により、より多くの市民の皆様が、緑・自然への関心、ひいてはGREEN×EXPO 2027 への関心が高まるよう努める。</p> <p>②緑化に取り組む市民活動の育成 よこはま緑の推進団体の育成により、緑化に関する更なる市民意識の向上及び市民活動の活性化を図る。</p> <p>③GREEN×EXPO 2027 での活躍も視野に入れたガイドボランティア育成 よこはま緑の推進団体等の人材の中から、GREEN×EXPO 2027 での活躍も視野に入れた「ガーデンネックレス横浜ガイドボランティア」を育成する。</p> <p>④GREEN×EXPO 2027 機運醸成の取組 当協会が管理する指定管理公園・動物園において、市民協働による「GREEN×EXPO 2027 応援花壇」の設置・管理を行うとともに、広報を展開し、GREEN×EXPO 2027 の機運醸成に貢献する。</p> <p>⑤動物園における環境教育・学習の推進 自然や命を大切に感じる感性を養い、地球環境を守ることの大切さを伝えつなげていくため、動物園での環境教育・学習を推進し、来園者や市民の皆様への保全意識を高め、行動変容を促す。</p> <p>⑥動物園における種の保存への取組 生物多様性の保全を推進していくため、国内外の動物園等と連携し、絶滅の危機にある野生動物等の飼育下個体群を保持する「種の保存」に取り組む。</p>				
<p>イ 公益的使命の達成に向けた現在の課題等</p>	<p>①②③④市民の皆様が緑・自然への関心をより一層高めるためには、大規模イベントなどで普及啓発を進める必要がある。また、緑化の担い手の確保・育成については、継続して広報などによる認知向上や、講座などによる人材育成に努める必要がある。</p> <p>⑤⑥人々の社会経済活動が拡大したことにより、生物多様性の損失等、地球規模の環境変動が急速に進んでいる。動物園は、生物多様性及び地球環境保全に貢献するため、その役割を積極的に果たしていくことが重要である。</p>				
<p>ウ 公益的使命達成に向けた協約期間の主要目標</p>	<table border="1" style="width: 100%;"> <tr> <td style="width: 50%; vertical-align: top;"> <p>①里山ガーデンフェスタ来場者アンケートによる満足度調査満足度9割以上</p> <p>②よこはま緑の推進団体 新規登録団体数30団体/年</p> <p>③ガイドボランティア育成 15名以上/年</p> <p>④協会管理の指定管理公園へのGREEN×EXPO 2027 応援花壇の設置・管理 9公園/3年・広報の展開/通年</p> <p>⑤動物園における環境教育・学習の推進 参加者数 令和6年度 244,000人 令和7年度 251,000人 令和8年度 258,000人</p> <p>⑥動物園における国際的な繁殖計画への参画・連携による種の保存への取組 10種</p> <p>(参考) 令和5年度実績等： ①満足度：春97%、秋95% ②27団体 ③14人 ④3公園・ポスター掲出など ⑤236,560人/年※ ⑥10種 ※令和4、5年度平均値</p> </td> <td style="width: 50%; vertical-align: top; text-align: center;"> <p>主要目標の設定根拠及び公益的使命との因果関係</p> </td> </tr> <tr> <td colspan="2" style="vertical-align: top;"> <p>①②③④市民の皆様が緑化や自然に関心を持ち、自ら緑化に取り組んでいくようになるためには、花や緑に関わる様々なイベントを通じて緑・自然への関心を高めること、緑の推進団体の認知を高め、新規登録を増やすこと、より意欲的で専門性を高めた人材の育成や取り組みを通じて関心や活動を広げていくこと、などが必要なことから、左記のとおりのもので目標とした。</p> <p>⑤より豊かな地球環境を未来につなげていくためには、来園者、市民の皆様への生物多様性及び地球環境の保全への理解を深め、主体的な行動を促していくことが重要であることから、環境教育・学習への参加者数を目標とした。</p> <p>⑥生息域外保全施設として国際的に種の保存の役割を果たしていくため、世界動物園水族館協会(WAZA)が策定する国際種管理計画をはじめ、国際的な繁殖計画に参画・連携して取り組む動物種を目標とした。</p> </td> </tr> </table>	<p>①里山ガーデンフェスタ来場者アンケートによる満足度調査満足度9割以上</p> <p>②よこはま緑の推進団体 新規登録団体数30団体/年</p> <p>③ガイドボランティア育成 15名以上/年</p> <p>④協会管理の指定管理公園へのGREEN×EXPO 2027 応援花壇の設置・管理 9公園/3年・広報の展開/通年</p> <p>⑤動物園における環境教育・学習の推進 参加者数 令和6年度 244,000人 令和7年度 251,000人 令和8年度 258,000人</p> <p>⑥動物園における国際的な繁殖計画への参画・連携による種の保存への取組 10種</p> <p>(参考) 令和5年度実績等： ①満足度：春97%、秋95% ②27団体 ③14人 ④3公園・ポスター掲出など ⑤236,560人/年※ ⑥10種 ※令和4、5年度平均値</p>	<p>主要目標の設定根拠及び公益的使命との因果関係</p>	<p>①②③④市民の皆様が緑化や自然に関心を持ち、自ら緑化に取り組んでいくようになるためには、花や緑に関わる様々なイベントを通じて緑・自然への関心を高めること、緑の推進団体の認知を高め、新規登録を増やすこと、より意欲的で専門性を高めた人材の育成や取り組みを通じて関心や活動を広げていくこと、などが必要なことから、左記のとおりのもので目標とした。</p> <p>⑤より豊かな地球環境を未来につなげていくためには、来園者、市民の皆様への生物多様性及び地球環境の保全への理解を深め、主体的な行動を促していくことが重要であることから、環境教育・学習への参加者数を目標とした。</p> <p>⑥生息域外保全施設として国際的に種の保存の役割を果たしていくため、世界動物園水族館協会(WAZA)が策定する国際種管理計画をはじめ、国際的な繁殖計画に参画・連携して取り組む動物種を目標とした。</p>	
<p>①里山ガーデンフェスタ来場者アンケートによる満足度調査満足度9割以上</p> <p>②よこはま緑の推進団体 新規登録団体数30団体/年</p> <p>③ガイドボランティア育成 15名以上/年</p> <p>④協会管理の指定管理公園へのGREEN×EXPO 2027 応援花壇の設置・管理 9公園/3年・広報の展開/通年</p> <p>⑤動物園における環境教育・学習の推進 参加者数 令和6年度 244,000人 令和7年度 251,000人 令和8年度 258,000人</p> <p>⑥動物園における国際的な繁殖計画への参画・連携による種の保存への取組 10種</p> <p>(参考) 令和5年度実績等： ①満足度：春97%、秋95% ②27団体 ③14人 ④3公園・ポスター掲出など ⑤236,560人/年※ ⑥10種 ※令和4、5年度平均値</p>	<p>主要目標の設定根拠及び公益的使命との因果関係</p>				
<p>①②③④市民の皆様が緑化や自然に関心を持ち、自ら緑化に取り組んでいくようになるためには、花や緑に関わる様々なイベントを通じて緑・自然への関心を高めること、緑の推進団体の認知を高め、新規登録を増やすこと、より意欲的で専門性を高めた人材の育成や取り組みを通じて関心や活動を広げていくこと、などが必要なことから、左記のとおりのもので目標とした。</p> <p>⑤より豊かな地球環境を未来につなげていくためには、来園者、市民の皆様への生物多様性及び地球環境の保全への理解を深め、主体的な行動を促していくことが重要であることから、環境教育・学習への参加者数を目標とした。</p> <p>⑥生息域外保全施設として国際的に種の保存の役割を果たしていくため、世界動物園水族館協会(WAZA)が策定する国際種管理計画をはじめ、国際的な繁殖計画に参画・連携して取り組む動物種を目標とした。</p>					
<p>主要目標達成に向けた具体的取組</p>	<p>①春秋年2回開催する里山ガーデンフェスタでは、「横浜の花で彩る大花壇」のほか、GX 関連展示、地産地消の取組、GREEN×EXPO 2027PR 花壇・ブースの設置などを行う。また、来場者数及び来場者の居住地や年代等の属性を分析し、その結果を活用して来場者の満足感を高めるとともに、新たな来場者層の確保につなげる。</p> <p>②区民まつりやHP等での広報を行う。</p> <p>③里山ガーデンにおいて、推進リーダー養成講座を継続して実施し、ガーデンネックレス横浜ガイドボランティアを育成する。</p> <p>④よこはま緑の推進団体、よこはま花と緑の推進リーダー等市民の皆様と協働で、GREEN×EXPO 2027 応援花壇の設置・管理を行う。花壇は、宿根草、多年草を主体とした植栽により、年間を通じて次々と咲き誇る持続可能な花壇とし、PR のための看板の設置や施設での広報を展開する。これらにより、担い手の人材育成とGREEN×EXPO 2027 の機運醸成を図る。</p> <p>⑤来園者や学校団体向けに動物とのふれあい、ガイド、教室・講座等を行い、3動物園の特性を活かしながら、様々な環境教育・学習の機会を提供する。</p> <p>⑥国際的な繁殖計画に参画・連携し、ペアリングや繁殖、また繁殖を継続するための海外からの動物収集や交流に取り組む。</p>				

	市	<ul style="list-style-type: none"> ・市民が花と緑あふれる都市で暮らす豊かさを「実感」できるよう、また、GREEN×EXPO 2027の機運を高めるため、協会と市で一層協力して里山ガーデンフェスタ（春・秋）を開催する。 ・「横浜みどりアップ計画」に基づく地域緑のまちづくり事業において、活動団体と緑の推進団体のつながりづくりを行うとともに、緑の推進団体への移行を働きかけるなど、市内の緑化活動団体の持続的な活動及び活性化を支援する。 ・地域に根差した緑や花の楽しみづくりにより、応援花壇の設置・管理を支援し、担い手の人材育成とGREEN×EXPO 2027の機運醸成を図る。 ・協会と連携し、情報発信など、伝える取組を強化する。
--	---	---

(2) 財務に関する取組

ア 財務上の課題		<ul style="list-style-type: none"> ・天候不順や記録的な猛暑による厳しい自然環境の変化に影響され、出控えなどの状況が多発したことにより、特に動物園への来園者数が減少し、入園料収入等が減少傾向にある。 ・物価高騰・賃金上昇の環境変化を受け、当協会における事業費支出（人件費、光熱費、委託費等）も増額傾向にある。 ・このように、安定的な経営をするのが困難な中、収入増、支出減に注力し、収支均衡を目指した経営に努めるとともに、公益への還元についても、引き続き貢献する。
イ 課題解決に向けた協約期間の主要目標		<p>①資金収支計算書における収支均衡を維持（毎年）</p> <p>②公益への還元として、指定管理の協定上、指定管理者として実施すべき項目以外にも、施設・設備・備品等の修繕・更新・調達等を実施し、市の財政負担軽減及び市民サービスの向上を図る。公園・動物園事業における公益への還元（1,000万円/年）</p> <p>（参考）令和5年度実績： ①1,023,394円 ②23,632,950円/年</p>
主要目標達成に向けた具体的取組	団体	<p>①公園・動物園に係る利用料金収入のほか、販売・駐車場等の経営事業収入、寄付金収入等の確保に向け検討を行い、経営の安定化を図る。</p> <p>②事業の内省化や事業の見直しを行うなど、支出削減に努める。</p>
	市	<ul style="list-style-type: none"> ・自然災害等、不測の事態が生じた際には、各契約等の定めに基づき、協議の上、適切に対応する。 ・協会が運営する動物園の来園者を増加させるために、市の広報ツール等を活用し、支援する。 ・協会が公益への還元として実施する修繕・更新・調達等が適切に行われるよう、その内容について、協会と協議する。

(3) 人事・組織に関する取組

ア 人事・組織に関する課題		<ul style="list-style-type: none"> ・協会設立から40年が経過し、管理施設・事業実施の多様化、少子高齢化、雇用に対する価値観の変化、SDGsの推進など、様々な環境の変化に対応するため、これまで以上に女性職員が意欲と能力を発揮し、多様性を活かすことのできる環境をつくり優秀な人材を確保する必要がある。 ・協会職員が自立的かつ持続可能な組織運営を担えるよう、職員の専門的知識・技術力の向上を図る必要がある。
イ 課題解決に向けた協約期間の主要目標		<p>①女性活躍の推進による「えるぼし認定（3段階目）」の継続取得</p> <p>②資格取得支援制度を見直し、新たな人材育成支援制度の創設</p> <p>（参考）令和5年度実績： ①えるぼし認定：3段階目の取得 ②資格取得支援制度を活用した資格取得件数4件</p>
主要目標達成に向けた具体的取組		<p>①様々な雇用環境の変化に対応するため、性別に関わらず意欲と能力を活かすことのできる職場づくりを進める必要があり、女性活躍推進法に基づく「えるぼし認定：3段階目」を継続取得し、優秀な人材確保や企業イメージの向上につなげる。</p> <p>②最低賃金の見直しに伴う人件費の増加など今後の厳しい財政状況を見据え、これまで以上に自立的かつ持続可能で効率的な組織体制での協会運営を担う人材を育成する必要がある。このため、効率的な組織体制を構築するとともに、平成20年より開始した資格取得支援制度を見直し、他都市への研修派遣、専門的知識を有する講師の招聘、職務遂行上有益な資格取得支援を軸とした新たな人材育成支援制度を創設することで、職員自身の発意による将来に向けた知識、技術投資を組織として支援する。</p>
	団体	<p>①「えるぼし認定：3段階目」継続取得に向け5つの基準（採用、継続就業、管理職比率、多様なキャリアコース）をクリアするよう中長期的な採用計画の策定・実施を行う。</p> <p>②令和6年度は新たな支援制度制定に向けた考え方や内容の整理、制度設計を行い、令和7年度に新制度を制定、運用を開始。令和8年度は運用実績を基に、制度の改善に取り組む。</p>

		市	・市の取組で、参考となるものについて、適宜、情報提供する。
--	--	---	-------------------------------

令和6年度

横浜市外郭団体等経営向上委員会 答申

団体名	公益財団法人横浜市緑の協会			
総合評価分類	団体経営は順調に推移	事業進捗・ 環境変化等に留意	取組の強化や 課題への対応が必要	団体経営の方向性の 見直しが必要
委員会からの 意見	<p>「公益的使命の達成に向けた取組」の「緑化推進事業」が「未達成」となっている。</p> <p>公園を活用した新たなにぎわいづくりに向けた取組や、ITを活用したイベント来場者のデータ分析は評価できる。引き続き、団体の公益的使命の達成と収益増につなげてほしい。また、寄附やクラウドファンディングについて、複数年にわたり成果が上がっているのは、団体の努力の成果である。</p> <p>新協約に掲げた市財政貢献に向けた取組については、精力的に進めるとともに、社会情勢の変化を踏まえた「緑化推進事業」や「動物園事業」の今後のあり方については、市所管局と共に長期的な視点で検討を進めてもらいたい。</p>			
団体経営の方向性 (団体分類)	引き続き経営の向上に取り組む団体			